



並木中等進路だより

NO.4

JULY 23, 2014

後期生

茨城県立並木中等教育学校学習進路部

「進路・学習に関する意識調査」から

先月、後期課程生対象に「進路・学習に関する意識調査」が実施されました。

気になる家庭学習時間のほうですが、次の結果のような結果がでております。全体的にもう少し学習時間を増やせないものかなと思います。別の項目で、学習時間以外で費やす時間というのが、「ケータイやパソコン等」が最も多く、なかにはケータイ・パソコンに毎日2時間以上時間を費やしている者もいます。その点については、後期課程生でも家庭でのルール作りが必要なのではないのでしょうか。

【授業以外の学習時間】(人)

	中 4	中 5	中 6
ほとんどやらない	9	0	1
30分程度	24	10	1
1時間程度	56	45	3
2時間程度	58	67	16
3時間程度	7	26	22
4時間程度	1	1	37
5時間以上	0	1	23
6時間以上	1	0	9

【休業日の学習時間】(人)

	中 4	中 5	中 6
ほとんどやらない	4	2	0
30分程度	8	3	0
1時間程度	23	8	0
2時間程度	42	40	8
3時間程度	43	44	4
4時間程度	23	39	11
5～6時間	9	13	43
6～7時間	2	1	29
9時間～	0	0	17

勉強時間の他に、「並木での学校生活の満足度」を見てみると、「とても満足している」「ほぼ満足している」と答えている生徒は、**中4・中5ではほぼ8割、中6では9割を超えており**、理由として最も多いのが、「**勉強が大変だけど充実している**」というものでした。

一方、「やや不満足」「とても不満足」と答えた生徒も、その理由を見てみると、「なんとなく不満足」というものが1番の理由で、6年生に不満な生徒がより少ないのは、受験という目標をしっかりと持って今まで以上に頑張り始めた結果なの

かもしれません。「**努力する者は夢を語り、怠ける者は不満を語る**」ということばがありますが、ただ「なんとなく不満足」ではなく、その原因を考えるなり、不満を解消するために自分で努力や行動を起こすべきでしょう。ただ「なんとなく不満足」と言っても何も始まりません。

【並木での学校生活の満足度】(人)

	中 4	中 5	中 6
とても満足している	31	17	37
ほぼ満足している	93	99	68
やや不満足	26	32	7
とても不満足	4	1	0

模擬試験の活用法

先日、4年生は初めて高校の模擬試験を受験しました。4年生はまだ年に3回と少ないですが、6年生になるとほぼ毎月模擬試験があります。では、模擬試験は何のために受けるのでしょうか？4・5年生にとっての目的は次の2つです。

① 全国規模で自分の成績がどれくらいなのかを知る

大学受験においてライバルとなるのは全国の高校生(＋浪人生)たちです。自分の現在の成績がいったい全国規模でどれくらいなのか、自分が志望する大学を目指すには**あとどれくらい頑張ればいいのか**、を模擬試験を受験することで知ることができます。

② 自分の弱点を知る

模擬試験は校内の定期試験とは違い、出題範囲が広範囲に渡ります。いわゆる一夜漬けは通用しません。だからこそ本当の今の実力が分かります。今、本当に分かっていることと分かっていないこと、定着していることと、定着していないことがはっきりしてきます。これは、今の自分の弱点を知るチャンスです。当然やりっぱなしでは、いつまでたっても弱点を克服することはできず、同じ間違いをまた繰り返すことになるでしょう。「模試復習ノート」などを作ることによって、模擬試験が**弱点克服のチャンス**となります。

受験生である6年生にとっては次の目的も大切です。

③ 本番のシミュレーション

6年生にとっては、1回1回の模試がまさに本番のリハーサルでもあります。解き方や時間配分など、いつも、もしこれが本番だったら、という気持ちで受験してください。その緊張感と周到さが、本番の成功を招きます。たとえ模擬試験であっても、マークミスや自己採点ミスなど絶対あってはならないことです。「**練習は本番のように、本番は練習のように!**」

<保護者の方へ>

模擬試験の結果に関心をもたれるのはいいのですが、「志望校判定」に過敏にならないようにして下さい。**現役生は受験の終わる3月まで伸び続けます**。目標を諦めたときにその伸びも止まってしまう。特に6年生は、浪人生がいっしょに受験しているような模擬試験も受験しています。この時期、判定は悪くて当たり前。**大切なのは最後まで諦めずに努力し続けること**です。

ぐ〜んと差のつく夏休みにやるべきことは何？

計画を立てる

長いようで短い夏休み、毎日無計画に過ごしていたら非常に後悔することになります。ぜひ計画を立てて過ごすこと。ただし**1週間に1日予備日**を設けるなど、計画の修正ができるようにする。

学習記録を残す

何時間勉強したか、計画通り学習できたかを毎日振り返り、記録する。記録することで自分の計画の修正もしやすくなるし、一步一步着実に向上することができるはず。「**昨日より今日、今日より明日**」を目指すべし！



規則正しい生活を送る

夏休みだからといって絶対に夜更かしや寝坊をしない。ふだん学校で授業を受けているときと同じように過ごすのがベスト。もし家にいる時は、午前中3時間、午後3時間、夜3時間を目指して学習しましょう。もしあなたが受験生なら、当然この夏は、**トータル400時間が合否のボーダー**になるかもしれません。

課題にしっかりと取り組む

まずは夏休み課題が最優先。課題に追い立てられるのではなく、**課題を利用して自分の実力を伸ばす**ことを考える。ひと夏で学力のすごく伸びる人が何人も出てくるはずです。

苦手科目・苦手分野を克服する

夏こそ苦手科目・苦手分野克服のチャンス。目標を持って自分の決めたハードルを必ずクリアしてください。KK 週間や課外なども大いに利用しましょう。

ふだんやれないことをやる

自由研究や一人一研への取り組みなど、**ふだんできないことも**やれるのが夏休み。今年の夏休みに行った自由研究が将来あなたのノーベル賞受賞のきっかけになるかも！？

オープンキャンパスのすすめ

この夏、**5年生は全員オープンキャンパス**に行くことになっています。4年生もし時間がとれば行ってみるといいですね。行きたい大学が決まっている人はもちろん、決まっていない人にとっても、大学という雰囲気を感じること、勉強に対するモチベーションも上がってきます。**大学の説明のほか、個別相談、体験授業、その他各種イベントなども実施**しており、勉強にもなるし、楽しめたりもします。ただオープンキャンパスのお祭りの要素に惑わされることなく、**自分の本当にやりたいこと、研究したいことがそこにあるのかどうか**をしっかりと自分の目で見てきてください。5年生はレポートが義務づけられていますが、他の年次生が行く場合も、いったいその大学の何を見てくるのか、しっかりと準備した上で見てくること。夏休みの貴重な1日をただ何となく過ごさないように。できれば、**自分の一生を左右するような1日**にできてきてください。

前回紹介した卒業生による「並木中等生に東北大学を知ってもらおう企画」のほうにも、5年生と6年生の3人がお世話になることになりました。

OB/OG 進路ガイダンス

【進路委員コーナー】

6月28日(土)に、今年の卒業生14名による6年生のための「OB/OG 進路ガイダンス」が行われました。その報告を6年B組の進路委員、田村伊織君と谷口裕太郎君にしてもらいます。

6年B組 田村伊織君

今回のOB/OGガイダンスは、第一回卒業生の生の声を聴くことができ、非常に有意義なものになったと思う。私たち受験生が今抱えている、もしくはこれから抱えるだろう困難

を乗り越えて、見事合格した先輩方の体験談は、説得力があり、とても参考になった。特に印象に残ったのは、ある先輩がおっしゃっていた、「自分を知る」という言葉だ。これから、自分について分かっているなければならないということがたくさんあると思う。例えば、自分の弱点を見つけて自分だけの学習法を確立しなければいけないし、自分の適性を理解したうえで大学・学部を選択しなければいけない。今までは、勉強面でも生活面でも、先生や親にいつも支えてもらっていたが、受験勉強や大学においては、自分で考えて行動していかなければならない。しっかりと自分と向き合って、かつ自分に負けないように、そして一回生の頑張りに続けるように、これから精一杯努力していきたいと思う。

6年B組 谷口裕太郎君

今回の進路講演会では、私たちが今まで知らなかった受験に関する貴重な話を先輩方から頂くことになりました。どちらの講演会も私にとってすごく有意義なものでした。一人目の先輩からは、大学に行ってから大学の様子、具体的な時間割など、大学に行ってから話を多くしてくださいました。また、先輩自身の大学受験の体験談や私たちに対するは、ものすごくためになりました。赤本の使い方や今からやるべきことなど、一転してこちらはすごく身近なもので、これなら私にでもすぐにでもやれそうだとやる気が出そうな話でした。

二人目の先輩たちからは、質疑応答を中心にこれからの各教科ごとの取り組み方について教わりました。中でも化学の勉強法に、私は衝撃を受けました。一見難しいように見える有機化合物の単元からやっていると、化学が好きになって、点数がぐんぐん伸びるといいます。その後それが勉強時間の観点から考えると非常に効率的であることに納得し、予想外の発見に新たな可能性を感じました。

講演会を通して、大学や受験に対する意識が高まり、モチベーションが向上しました。今までは大学受験はこんなものだろうか、どんな科目をやればよいのか、といった抽象的なイメージでしか捉えることができなかったのですが、講演会終了後は具体的に大学がどんなもので、各教科でどの単元、分野をやればいいのか、といった具体性のあることが「見える」ようになりました。この「見えた」ものを生かして、あと半年余りの期間で頑張っていきたいと思います。

夏は受験の天王山

最後に、並木中等で6回目の夏休みを迎える6年生にアドバイス。みんなにとって今年の夏こそまさに「天王山」。この夏を制する者こそが、自分の目標に着実に一步近づくことができます。ぜひ具体的に行動してください。まずは「**国数英の基礎力完成**」、そして「**理社への本格的な取りかかり**」。いつ何にどれだけ時間を割くかを長期計画と短期計画で立て、軌道修正をしながら進めていくこと。今年は絶対に後で悔いの残らない夏休みにして欲しい。参考までに、ベネッセ調査による「**大学合格者に聞く：夏休み最も時間を割いた勉強は？**」によると、

基礎・苦手克服	91%
応用問題	6%
得意伸長	3%

